

市民のひろば



ファイヤーマンあやうし
稲生で

声

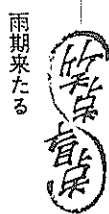
雨期到来に思う

見晴らしのよい座敷から、窓越しに眺める香長平野のたたずまいも、ここ数年の間にすっかり変わってきた。

チカツ、チカツと初夏の日差しを、まぶしく反射させて、らせん型に見える観音道路を、車が、よじ登って行く。遠く近く尾根を連ねる北方の山すそも、あかちやけた山膚をあらわにむき出し、あそこも、ここも、ずいぶん削ったものだな、あの山すそには、民家や学校は、ないだろうか。などと真剣

に考えている自分に、はっとすることがある。

昨春秋、高知市内に住む友人一家が、由くすれの犠牲になり、二人の愛児を一時にして失ってしまった。その憔悴しきった友の姿を忘れることができない。共に働いた職場から、子どものために、家庭にもどり、育児に専念していた友、賢い頭のひらめきと、素朴



雨期来たる
災害は忘れないころにやってくる

市民
チクリ丸(稲生)

な人柄にひかれて二十年余り、女の友情は短いと、人はいうが、今の声として掲載しました。

広報短信

広報なんこく 全国で入選

四十七年度の全国広報コンクールが行なわれ、「広報なんこく」四十七年九月号が、都市の部で入選に選ばれました。

南園市としてははじめて、高知県では春野町、高知市に次いで三番目、五年ぶりのことです。

また、広報写真の部で「あ、青になつたよ、おまわりさん」四十七年八月号、表紙写真も入選に選ばれました。



新緑に包まれた雨あがりの山道は、燃えんばかりの若葉の香りでむんむんする。

木々の間から差し込んでくる太陽のこぼれ目に汗を感じながら、ただ歩く。

遠く山肌には、赤ツツジの残色が青い空に浮いて見える。こんな四国山地の某地に足を止め、休むばいにこの季節を吸い取る。
永井荷風の一言に

親子クイズ①

ご家庭で話し合ってください。今月号の広報にてしています。

- ▼もんだい
①ゴミ収集用の袋は、市の決めた紙袋にご協力を——。指定の紙袋は一枚〇〇円で販売されています。
②全国の広報コンクールで「広報なんこく」が入選しました。入選したのは47年〇月号の広報紙です。

③検診のお知らせがでています。稲生地区で行なわれる乳児検診は、6月〇〇日に稲生公民館です。

▼しめきり・6月30日(土)▼おくりさき・南園市大浦、南園市役所内、広報委員会、親子クイズ係 〒783▼しようひん・特賞 2,000円 1人、残念賞(記念品)10人

★特賞に大野純輔さん(前浜)

第20回の正解者発表
▼こたえ・①=10日と②⑤日、②=明治、③⑩、昭和、③=②⑦人でした。
▼特賞 2,000円、大野純輔(前浜) 残念賞 記念品、末政光代(田村) 杉本陽子(前浜) 岡林成幹(大浦) 溝瀨陽子(大浦) 北村真理(南陣山) 田中禎子(物部) 大野チヨカ(前浜) 植田明子(小蓮) 中沢富子(西島) 田内成幸(片山)

みんなの学習

差別のない社会をつくろう

日本国憲法が施行され、民主主義の時代となって三十年近くを経過した今日、なお男女の差別、貧富の差別、職業による差別など、差別がさまざまなかたちで存在しているのです。私たちは民主主義をとるながら、日頃のくらしの現実と真の民主主義を正しく結びつけないままに、差別は依然として残されてきました。憲法で基本的人権がいくらか保障されていても、そのことが直ちに国民のくらしの中で、事実として現われるものでないことを正しく理解することがたいせつです。

政治の主権をもつ国民が、国の政治を正しく見守り、国民のひとりひとりの力で、憲法で保障する自由や権利をほんとうにくらしの中に実現するように努めなければ、憲法も基本的人権も絵にかいた餅にひとしく、差別は残され、なくならないのです。

このことは部落差別が今日もなお生き続けていることによっても明らかです。昭和四十年、内閣に出された「同和対策審議会答申」では、「同和問題は、現代社会においても、なおいちはるしく基本的人権を侵害され、とくに近代社会の原理として何人にも保障されて

いします。」「(東崎、吉岡隆一君)「ちかちかちかとも当らない!」(東坪池、土居啓一君)「こんな楽しい文章や絵を書いたハガキが毎月広報にとどきます。」「長尾鶏が「日本一」ならば南園市も「日本一良い市」になりましたでせう。」と書いてあったのは浜改田、十六オの田中敦子さん。

どうもすいません
五月十五日の広報へ、沖繩行の朝と題して絵をくださった北村時重さんの名前が晴重となっていました。訂正しておわびします。

若草の間から顔を出した野あざみに語りかけ、庭のあじさいのつばみを育て、姿美しにかきつばたの花びらにとけこむ緑の雨のいちばん美しい顔である。雨の間をかわして吹いてくる初夏の風も肌美しく感じる。
「花から雨へ」こんな自然のひとときもいものである。
ひと休めた足を、また、想い出深い新緑のこの地に、動かして行く。

朱陽子 (園分)



雨期来たる
古谷栄幸(植田)

文芸

吉本忠重(久礼田)

怪獣が出てままこの座がこわれ
根分けして鉢に植えたるボタンかな
新しき帽子かがやき妻田植
永雨に洗濯もせぬ一着かな
花嫁の白きうなじに散るさくら
追いつめて川に橋なしとボネズミ

吉本清躬(長園)

ミニ広報

30日...東京を中心に光化学スモッグ発生、1,687人の被害者(昭47)

ミニ広報

25日...ソ連式無痛分娩成功。以後、日赤系病院で広く採用(昭28)